



「9.11」をめぐる歴史の闇を暴いた『モーリタニアン 黒塗りの記録』



2001年9月11日に起きた米同時多発テロ事件をめぐる歴史の闇を暴いた『モーリタニアン 黒塗りの記録』が10月29日から公開されます。原作はキューバのグアンタナモ米軍基地に収容されていた、ある男性の手記。米政府の検閲で多くが黒く塗りつぶされたその手記（「グアンタナモ収容所 地獄からの手記」）は2015年に米国で出版されベストセラーとなり、世界20か国で刊行されました。

異例尽くしの手記の映画化を強く望んだのが、英国の人気俳優ベネディクト・カンバーバッチ。自身の製作会社でプロデューサーに専念するはずが、出来上がった脚本に感銘を受け、自らも出演して完成させたという話題作です。

<あらすじ>

2005年、弁護士のナンシー・ホランダー（ジョディ・フォスター）はアフリカのモーリタニア出身、モハメドゥ・ウルド・スラヒ（タハール・ラヒム）の弁護を引き受ける。「9.11」の首謀者の一人として拘束されたが裁判は一度も開かれず、グアンタナモ米軍基地の収容所で地獄のような投獄生活を送っていた。ナンシーは「不当な拘禁」だとして米政府を訴える。

一方、テロへの“正義の鉄槌”を望む政府から米軍に、モハメドゥを死刑判決に処するよう命令が下り、スチュアート中佐（ベネディクト・カンバーバッチ）が起訴を担当する。真相を明らかにして闘うべく、それぞれの立場から綿密な調査が始まる。再三の開示請求でようやく政府から届いた機密書類には、ナンシーを愕然とする供述が記されていた。スチュアート中佐もまた、モハメドゥの取り調べのすべてを記した文書の保管場所に辿り着く。ついに二人は、隠された真実を探り当てようとしていた……。

© 2020 EROS INTERNATIONAL, PLC. ALL RIGHTS RESERVED.

<見どころ>

国家が個人の尊厳を踏みにじり、人生を蹂躪する恐ろしさ

怖い映画である。実話を基にしたというから、なおさらだ。

モハメドゥ・ウルド・スラヒ氏は2000年に米国に身柄を拘束・拘禁され、2002年にグアンタナモ収容所へ移送された。彼を待っていたのは、連日繰り返される長時間の尋問だけではない。凍えるほどに冷え込んだ部屋での留置、眠らせないためにスピーカーから流れる大音響や光の点滅、海に連れ出されての水責め…、そしてモーリタニアに残した家族に身の危険が及ぶかもしれないという脅し……。収容所で受けた虐待、拷問、脅迫の数々が生々しく描かれる。国家が個人の尊厳を踏みにじり、人生を蹂躪する。その恐ろしさに慄然としてしまう。

本作は政府が保有する機密文書の開示を求めて悪戦苦闘する弁護士の戦いの記録でもある。黒く塗りつぶされた文書は、事実を隠蔽しようとする権力側の強い意思を象徴的に表したものだ。ただし、事実は事実として克明に文書に記して残すことが前提にあり、弁護士による粘り強い請求によって、ついに機密文書が明らかになる。

翻って日本はどうか。あったことをなかったことにするために文書を改ざんしたり、時に廃棄したりする。政府文書をめぐる彼我違いも、本作から連想することの一つである。

© 2020 EROS INTERNATIONAL, PLC. ALL RIGHTS RESERVED.

政治的要素×ヒューマン・ドラマ

本作は極めて政治的な映画である一方で、類まれなヒューマン・ドラマとしての色合いを併せ持っている。

ケヴィン・マクドナルド監督は筆者のインタビューに答え、監督を打診されたときは「モハメドゥ氏はアメリカに対する怒りを抱え、復讐を望んでいるような人物だと思っていた」と打ち明ける。

ところがモハメドゥ氏本人とオンラインで話してみると、「実際の彼は温かくてユーモアがあり、きちんとした考えを持っていた。しかも、酷い目に遭ったにもかかわらず赦すことができ、人生を後ろ向きではなく前を向いて歩いていこうとしていた」と感じたという。

「彼の映画であれば作りたい」。そう思わせる人間的な魅力がモハメドゥ氏にあったと、ケヴィン監督は映画化の経緯を振り返ってくれた。モハメドゥ氏は裁判闘争の末、2010年に釈放を命じられたが、収容所からオンラインで裁判に出席した同氏の陳述シーンは、観る側に人間という存在の奥深さや可能性を訴えかけてくる。本作の見せ場であろう。

ベネディクト・カンバーバッチやタハール・ラヒムら名優の中で、大ベテランのジョディ・フォスターがさすがの存在感を放っている。決め手となる証拠がなかなか見つからない焦りを押し殺して冷静沈着な姿勢を貫き、ついに隠された真実への扉を開くという役どころを熱演。『タクシー・ドライバー』『羊たちの沈黙』など往年の名作で人気を博した彼女は本作でも健在ぶりを示し、ゴールデングローブ賞の助演女優賞を受賞している。

© 2020 EROS INTERNATIONAL, PLC. ALL RIGHTS RESERVED.

映画の終わりには映画に登場する実在の人物が登場するが、顔立ちや雰囲気が映画の中ととてもよく似ていることに驚く。何よりもモハメドゥ氏は必見だ。ぜひ、映画館に足を運んで確認していただきたい。

文：堀木 三紀（映画ライター／日本映画ペンクラブ会員）

<作品データ>『モーリタニアン 黒塗りの記録』原題:THE

MAURITANIAN監督：ケヴィン・マクドナルド出演：

ジョディ・フォスター、ベネディクト・カンバーバッチ、タハール・ラヒムほか原作:モハメドゥ・ウルド・スラヒ「モーリタニアン 黒塗りの記録」(河出文庫)2021年 /

イギリス/英語・アラビア語・フランス語/ドルビーデジタル/カラー/スコープ/字幕翻訳:櫻田美樹

© 2020 EROS INTERNATIONAL, PLC. ALL RIGHTS RESERVED.

配給:キノフィルムズ 提供:木下グループ10月29日(金)、TOHOシネマズ

日比谷ほか全国ロードショー<https://kuronuri-movie.com/>

© 2020 EROS INTERNATIONAL, PLC. ALL RIGHTS RESERVED.